

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 外部評価結果報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970400376
法人名	有限会社 奈良ライフサポート
事業所名	グループホーム ゆりかご
所在地	天理市樺本町1461-3 0743-61-0867
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成20年10月21日

【情報提供票より】(20年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 15日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	7 人
常勤	5 人
非常勤	6 人
常勤換算	5 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	1,300 円	
敷金	有( 円)		○無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 500,000 円)	有りの場合償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1500 円		

### (4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	原 医 院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、近くにあるJRの駅から少し入ったところにある木造の一戸建て住居で、近くには、季節の花々が咲く畑や神社もあり入居者の憩いになっている。食事は、季節の食材も取り入れバランスよく手作りされおいしいと好評である。協力医との連携も良く夜中でも駆けつけてくれる体制を築いている。職員にヒアリングしたところ「ご利用者は、いい人ばかり、幸せに暮らして欲しい。親を見る気持ちで接している。」と言う言葉が聞かれた。職員間の人間関係も良く明るく丁寧な対応と共に「ゆっくり、ゆったり、その人らしく」の理念を実践されている。

## 【重点項目への取組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価後より、季刊誌「ゆりかご通信」の発行を再開し、個人ファイルに水分摂取量を記録し把握できるよう改善に努めた。また、重要事項説明書に外部相談窓口も付け加えた。しかし地域密着型の理念づくり、職員の研修計画作成については、実行にいたっていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に全員が参加し、利用者のADLが低下してきていることが大きな課題でそれらにどのように対応していくか話し合った。設備面では、暗かった玄関を明るくしたり、出っ張っていたタオル掛を外し、夜中に目覚めても休めるようにリビングのソファをリクライニング式に替えるなど改善に努めた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政、地域包括センター、自治会長、家族、職員が出席し6ヶ月に1度開催され、地域や家族と行政のパイプ役もなしている。今後は、調査結果の報告や課題の検討も取り上げてより活発な意見交換がなされるよう望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしの様子等を家族の訪問時に報告し、訪問の少ない家族や変化のあったときはすぐに電話で連絡をしている。また、金銭管理の報告と一緒に行事案内や、利用者の近況写真も同封している。常に利用者や家族の意見、希望を聞く姿勢を持ち、苦情は、グループホームの運営者に相談できる体制が出来ている。記録を残し全員でサービス向上につなげている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の祭りや運動会の見学に参加している。また、ボランティアや中学校の体験学習も受け入れている。地域の人との交流をはかりたいと思っているが挨拶程度に終わり、活発な働き掛けまでには至っていない。地域との付き合いは、緊急、災害時にも重要であり、交流につなげる足がかりとして音楽療法や行事のマジックショーへ近隣の方を積極的にお誘いし、グループホームの理解につなげていただけるよう期待する。</p>

## 2. 外部評価結果報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	花と笑顔のあるホームで「のんびり ゆったり その人らしく」と理念を掲げ、重要事項説明書やパンフレットに記載している。散歩の折には近くの商店を覗いたり、挨拶は交わしているが、地域密着型サービスとしての理念への検討には至っていない。	○	制度改正により「家庭的な環境の下で」から「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」と基本方針が改められている。地域密着型サービスの役割を職員全員で話し合いホーム独自の理念を創りあげられることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	従来の理念を目標に管理者、職員は笑顔で接することを心がけて毎日の生活の中で実践している。今後は、地域でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての新しい理念の実践に期待する。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の祭りや運動会の見学に参加している。また、ボランティアや中学校の体験学習も受け入れている。地域の人との交流をはかりたいと思っているが挨拶をかわす程度にとどまり、活発な働き掛けまでには至っていない。	○	地域との付き合いは、緊急、災害時にも重要である。交流につなげる足がかりとして音楽療法や行事のマジックショーなどへ近隣の方を積極的にお誘いしグループホームの理解につなげていただけるよう期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し職員全員で自己評価を行った。前評価後、季刊誌「ゆりかご通信」を再開し、水分量の把握にも努めた。ハード面では、暗かった玄関を明るくしたり、出っ張っていたタオル掛けを外し、夜中に目覚めても休めるようにトリピングのソファをリクライニング式に替えるなど改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域包括支援センター、自治会長、家族、職員が出席し6ヶ月に1度開催され、地域や家族と行政のパイプ役もなしている。今後は、調査結果の報告や課題の検討も取り上げて意見交換がなされるよう望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	天理市は、介護保険事業に熱心で毎月、市が主催する担当者会議に出席し情報交換、意見交換がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に報告をし、訪問の少ない家族や変化のあったときはすぐに電話で連絡をしている。また、金銭管理の報告と一緒に行事案内や、利用者の近況写真も同封している。季刊誌「ゆりかご通信」の発行も再開した。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者や家族の意見、希望を聞く姿勢を持ち、苦情は、グループホームの運営者に相談できる体制が出来ている。記録を残し全員でサービス向上につなげている。また、重要事項説明書には、外部相談窓口の明示もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、平均5年以上勤務し定着率は良く、利用者も顔馴染みの職員に安心してサービスを受けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回ミーティングや勉強会を行うようにしている。県主催の研修会、法人本部の研修に参加するよう呼びかけてはいるが、勤務時間帯により参加できる機会がかたよる。独自の研修計画が作成し、職員全員が受講、共有できるような仕組みを期待する。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、知り合いのグループホームとの情報交換を行い、認知症対応型通所施設との交流も行っている。管理者、職員も同業者との交流へと発展することを期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人グループの認知症デイサービスを利用していた方が多く、入居に際しては、顔馴染みの職員に付き添ってもらっている。職員は、利用者が安心して過ごせるよう心を配っている。見学や体験利用もあり馴染みながらのサービスに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の重度化が進み、今までしていたことがだんだん減ってきているが洗濯物たたみや掃除と出来ることを職員と一緒に探しながら行っている。昔話を聞いたり料理について教わる等共に暮らす一日になっている。職員の、「親を見るような気持ちで接している」と言う言葉が、印象に残った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者の生活歴や暮らしの希望等を詳しく聞き、面会時には家族の思いを聞くようにしている。	○	利用者の介護度の重度化で思いや意向の把握は難しくなっていくとは思いますが、どんな重度の方でも言葉や表情、行動等からニーズを汲み取り、安心して暮らし続けることが出来るように個人に見合った思いや意向の把握に努めることが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族の希望を考慮して職員が話し合い作成され家族の了解も得ている。重度化に向けても協力医と共に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、課題の変化が生じた時にその都度行い、大きな変化がない時は、介護認定更新時に行っている。	○	介護計画の見直しについては、もう少しきめ細かく見直しの時期を設定し、評価についても記録に残すことが望まれる。また、介護計画の見直しについて家族と話し合い、新たな介護計画を作成する体制づくりが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人は、デイサービスや訪問介護事業もしており緊急の時は応援できる体制がある。医療機関への手続きや送迎、外泊の支援も行っている。個人の望みを叶える「シンデレラの日」を設けホテルディナーや東大寺参拝等望みを叶えた利用者もいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに夜中でも往診してもらえる協力医療機関を持ち、1週間に1度健康チェックを受けている。また、口腔ケアに力を入れ2週間に1度歯科衛生士によるケアを実施している。希望によりかかりつけ医への受診にも応じている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について重度化指針を作成し利用者、家族と取り決めがなされている。極力ホームで看取っていく方針である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけは穏やかでトイレ介助や入浴時には特に利用者のプライバシーに配慮しながら対応している。耳が遠くなった利用者には起床時やトイレ誘導用の文字カードを作る等工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決めているが、居室で休まれる人、廊下の手すりを使って歩行練習する人、テレビを見て過ごされる人と思いの時間を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て手作りで、利用者の好みも把握しおいしく調理されている。季節の食材をメニューに取り入れ音楽の流れる中で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりとした家庭用の風呂で週3回入れるようお風呂の日を設けている。嫌がるときは、無理強いせず次回に入ってもらようゆったりと対応している。また、全員がお風呂につかれるよう介助している。現在は、職員配置の関係で夜間入浴は実現していない。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のADLの低下で出来ることは少なくなっているが、洗濯のしわ伸ばしや洗濯物たたみ、出来る人には、掃除と役割を任せている。	○	ADLが低下していて出来ることが少ないように見えるが、与えるだけの介護のみならず、その人なりの課題を見出して喜びにつなげるよう期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ADLの低下で散歩に行くことが少なくなってきたが、玄関から行きかう子供や畑を眺めたり、部屋の窓から見える花火を観覧したりと工夫している。現在、庭の活用は難しい。天候のよいときなどは、積極的に外の空気に触れることが出来るような更なる工夫に期待する。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけないケアを十分認識しているが、玄関前に水路があるため日中も玄関のみ施錠している。外に行きたい人があるときは、そっと見守りながら付添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練を実施し、火災報知器や消火器も備え付けられている。警備会社と契約し緊急時には、速やかに駆けつけてくれる仕組みをとっている。近隣との協力、非常食品や備品の備蓄の検討が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は、していないが、バランスを考え「好きなものを好きなだけ食べていただく」という考えで利用者の大きな楽しみになっている。水分摂取量の把握にも努めて一日の水分量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が飾られ、リビングの掃きだし窓には、日よけにもなるゴーヤの葉が揺れている。トイレ、浴室は清潔で掃除も行き届いている。廊下や、利用者の居室の入り口には手作りの小物が飾り付けられ居心地のいい空間を作り出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、ベッドや机、テレビ、筆筒等が持ち込まれ、利用者それぞれの個性を表した居心地のいい居室となっている。		